



特集 その後どのように過ごしていますか？

一杯のコーヒーで幸福なひとときを

特集 その後どのように過ごしていますか？

一杯のコーヒーで幸福なひとときを

東京都立川市 | 店舗 | 自家焙煎珈琲豆店 一福 (ichifuku)

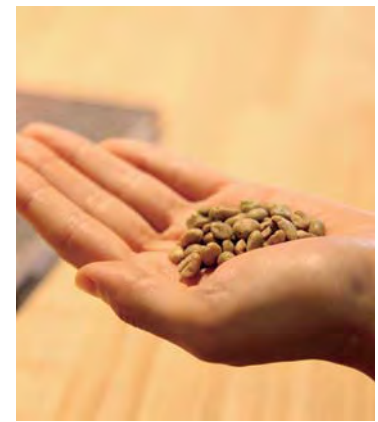


1

ストーリー

今回で紹介するのは、住宅街の中に佇む小さなおうちのようなお店『一福』さん。こちらで仲良くお店を営むご主人と奥様にお話を伺いました。「55歳を過ぎた頃から定年後に第2の人生として、カフェをやりたいと考えていたんですよ。そんな時、たまたまSNSで相羽建設※しゃこの『倉庫』の写真を見つけてピン!ときました。さっそく実物を見学に行って " 小さなお店を家の前にこんな感じで建てたいなあ " と思ったんです」とご主人。そうして、ご自宅前にあった2台分の駐車スペースを利用して建てられたのが、6坪の自家焙煎珈琲豆店です。





2 ゆったり時間

コーヒー好きになったのは、豆を挽いてドリッピングして飲む美味しさに感動したことがきっかけだったというご主人。「コーヒーが作られる工程にも興味がわいて本も買いました。そしたら『焙煎』というのが最初に出てきて、

実は家でもできるんだとわかり、やってみたんです。それがとても美味しくて!自分で焙煎したものは自分でドリッピングしたいようになったんです」。当初は豆の販売メインで考えていた店内ですが、「近所の方が気軽に集ま

れる場所になつたらいいな」という奥様の想いもあり、カウンター席も設けられました。ゆっくりとコーヒーが淹れられる様子をお客さんと一緒に眺めながら、おしゃべりも楽しめる、そんな素敵な時間を過ごせる場所に。



3 また来たくなる



店内に飾られている奥様のタイル作品。お店の看板にもなっています。



▲ おしゃべりを楽しみに

「お店がオープンしてからいつも来てくれる常連のおじいちゃんがいる」ここに来るとおしゃべりできるから良いんだよ〜”と仰ってくださるんです。そんなちょっとした一言がとても嬉しくて」と奥様。今ではお友達がお友達を連れてきたり、自然とお客さん同士の待ち合わせ場所にもなっているそうです。

▼ ひとつずつ丁寧に

一福さんでは生豆の状態と焙煎後の2回、^{*}ハンドピックを行っています。そうすることで色ムラのない美しい豆ができていきます。また、店内に設置された直火式の焙煎機で毎日丁寧に焙煎されるコーヒー豆の香りに誘われて、お店にふらっと立ち寄られる方もいらっしゃるのだとか。

^{*}ハンドピック…手作業で豆を選定すること



取材後記

美味しいコーヒーを飲んだり、笑顔が素敵なお夫婦との会話を楽しませて頂いたり、6坪の建物の中に素敵な要素がたくさん詰め込まれたお店でした！この日はコスタリカのハニージャガーというコーヒーをご馳走になりました。紅茶のようなさっぱりとした味に驚きつつ、自分がまだまだ知らないコーヒーの奥深さを感じた瞬間でした。是非みなさんもおすすめ商品をお店で聞いて、そして飲んでみてください！(記:広報 吉川)



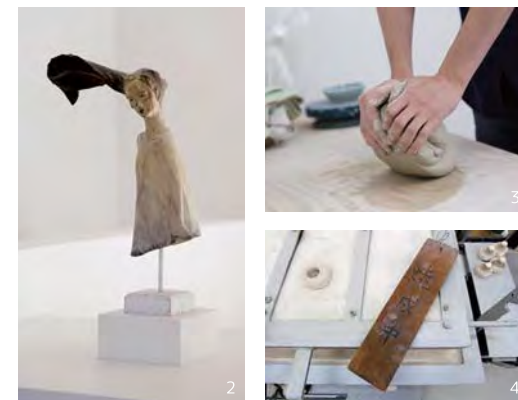
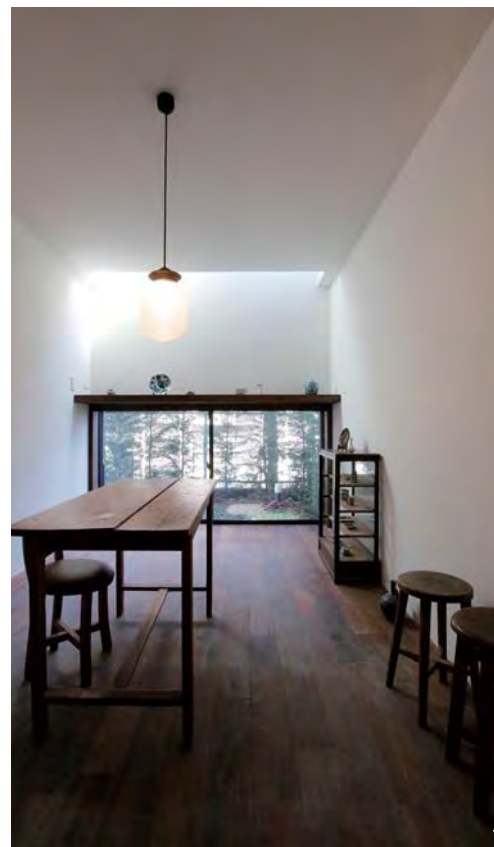
自家焙煎珈琲豆店『一福』…東京都立川市若葉町4-18-4 営業:10:00~19:00(火曜・第3水曜定休)
設計・施工:相羽建設
撮影取材:栗林・伊藤・吉川 ainohaバックナンバーはこちら→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>





▼ デザインと実用性

荷物や材料の運搬が多いため、玄関付近は幅を持たせ、入り口から奥までを土間スペースに。その横にある応接間では、お二人の作品やアンティークショップで集めたというご主人お気に入りの古い家具が並びます。実用的だけれど、洗練された空間。



1…応接間。2…前川秀樹さんの流木を使った彫刻作品。3…仕事風景。4…ご夫婦共有の陶芸窯。5…豆砂利で洗い出した土間のある玄関。

3 自宅兼工房



◀ 生き物から風景まで様々な表情の奥様の絵付け用のラフスケッチ



▲ それぞれの工房

ご夫婦それぞれのスペースが確保された1階の工房。作品を乾燥させる棚があるのはもちろん、保管場所の確保に悩みがちな大量の材料も、大工さんが作った丈夫な棚にすっぽりと納まっています。家にいながら作品の乾燥具合などをすぐ確認しに行けるので、以前と比べて効率よく作業できるようになったそうです。



取材後記

ため息が出るほど美しい!シンプルで洗練されたお住まい。仕事場を家の中にとりこみつつも、しっかりと二人分の作業部屋と収納スペースが確保されていて、とても使い勝手がよさそうでした。ずっと続いていく生活の中の一部として、住むことと働くことが身近にある暮らし方って素敵だなあと、A様ご夫婦の暮らしぶりを見ていて感じたのでした。(記:広報 吉川)



設計:オノ・デザイン建築設計事務所/施工:相羽建設
撮影取材:伊藤・吉川 ainoha/バックナンバーはこちら→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

ものづくりを愉しむ暮らし



特集 その後どのように暮らしていますか？

ものづくりを愉しむ暮らし

埼玉県所沢市 | S邸(ご夫婦2人+子ども1人) | 木造一戸建て



1

家づくりストーリー

暮らしはじめてから16年が経つ、3人家族のS様のお住まいを訪ねました。

S様ご夫婦が家づくりを考えはじめたのは、まだお子様が生まれる前のこと。もともと所沢市に住んでいたお二人は「なるべく同じ市内で……」と土地探しをしていたところ、ちょうど不動産屋さんから今の土地を紹介してもらったそうです。当時、周りには家も何もありませんでしたが、高台になっていたため目の前にはとても良い景色が広がっていました！夏は木が生い茂り冬になると葉が落ちて遠くの街並みも見渡せる、季節の移り変わりを感じられる場所。ここで暮らしを楽しもうと、S様の家づくりがはじまりました。

2

すぐそばに森を感じる家

土地も決まり、どんな家にしようかと考えていたS様。そこで、高台の手前の木々がたくさん生い茂る小さな森を活かそうと、家を森に近づけるように、縦長の間取にしようというアイデアが生まれました。またアプローチには「つぼ庭がほしい」という想いから、敷石と植栽を植え、籠もり感のある可愛い庭を。他にも当時一緒に暮らしていた猫のことを配慮し、柵や塀を高くする工夫など、一つひとつの希望を丁寧に家づくりに取り入れたS様のお住まい。

「家づくりは北上大工さんが大きいところから細かいところまで調整してくれて、本当に助かりました。実は木工事の際に出た端材も頂いていて、まだ大事に保管してあるんです。時々DIYに使っています」というS様からの嬉しいお話も。

完成から16年の年月が流れ、壁や床も経年し、しっとりとした味わいのある雰囲気。明るすぎないほどよい暗さのリビングからは外の緑がとても綺麗に見えます。「朝早く起きてリビングで静かに過ごす時間が好きなんです。目の前の森から鳥の鳴き声がたくさんして。早朝の外に誰もいない時間帯がすごく良いんです」とご主人が笑顔でお話してくださいました。



3

ものづくりを愉しむ



2階にある3帖ほどの空間はご主人の工房として使われていました。2年ほど前に浦和のお店で手づくりメガネに出会い「これは自分でもつくれるかも!」と、ものづくり心に火がついたご主人。メガネの聖地、鯖江にも足を運んだり、材料ルートも自身で直接交渉して素材を仕入れたというほど。作品も趣味とは思えないほど本格的!クラフトフェアまつもと2016にも出展されました。



この日は取材に来た広報の2人もちゃっかりメガネを試着。S様に自分たちにあったメガネを見繕って頂いたり、サイズを測って頂いたり。メガネ談義に花が咲きました。



4

ゆったりキッチン

廊下を挟んだ窓越しに、アプローチのつぼ庭を眺められるキッチン。キッチンカウンター（廊下側）には戸棚がついていて、食器がきれいに納められていました。実はこの部分、北上大工さんがアイデアを出し、空いているスペースを利用して造作してもらったという素敵なエピソードも。また、よく中華料理をつくることもあるというS様。「せっかくなら!」と業務用のコンロも奥に設置されていて本格的です。



取材後記

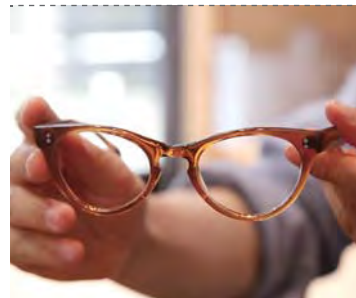
ご主人のメガネ談義がとて面白く、危うくお仕事を忘れてしまうほどだった今回のainoha取材。そして16年以上経ったAIBAのお家を取材させていただくのも初めてで、とても貴重なお時間を過ごさせて頂きました。居心地の良さは月日を重ねることに増していくのだなぁと実感したこの日。永く住み続けるのが楽しみになりますね。

(記:広報 吉川)



OPTICAL-M (Instagram) → optical.m

取材:伊藤・吉川...取材後記はコチラ → <http://ameblo.jp/ainohablog/>





特集 「その後、どのように暮らしていますか？」

夫婦で趣味を楽しむ暮らし

東京都国分寺市 | A邸

1 Story

きっかけは「土地探し」から

住みはじめてから3年。ご夫婦で趣味を楽しまれているAさまのおうちを訪ねました。

もともと借家住まいだったAさまは「交通の便がもっとよくなるように」と家づくりを考えはじめ、まずは土地探しからスタート。不動産情報をwebで調べては毎週のように現地に足を運び、良さそうな土地があると、当時の担当スタッフ相羽健太郎（現在社長）と相談。一緒にメリット・デメリットを丁寧に話し合ったり、途中で何度かあったピンチも一緒に乗り越えてきたという心温まるエピソードも……。そして土地探しをはじめてから2年、ついにAさまご夫婦にピッタリの土地が見つかったのです！

Living Room



Entrance



2 Lifestyle

暮らしぶり

大きな扉と障子窓から昼下がりのやさしい光がさしこむ玄関では、奥さまが生けた花が美しく飾られていました。お気に入りの古道具屋で見つけた照明や、そのお店で修理してもらったという実家の筆筒など、昔ながらのものを自然に生活空間に取り入れています。日当たりがよく冬



左/古道具屋で見つけた建具。枠を付けることで新居にぴったりと収まりました。

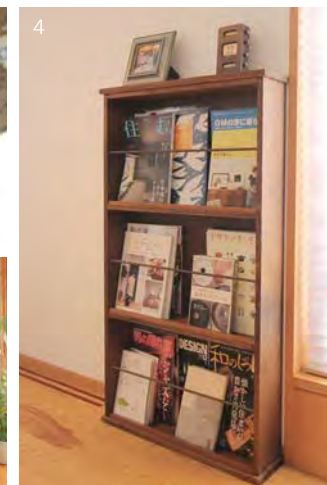
も暖かい2階のリビング&ダイニングでは、ジャズを流しながらご夫婦でゆったりとした時間を楽しんでいるそう。OMソーラーの効果にも「寒い日に布団から出るのもツラくないです!」と笑顔でお話いただき、とても快適に過ごされている様子が伝わってきました。



玄関の床は大谷石。趣きのある風合い。



Dining Room



1.濃い色味の家具があるシックなダイニング。2.お部屋に流れる素敵な音色の秘密はご主人こだわりの真空管アンプ。3.TVボードは、佐久間大工さんの造作家具。色調は部屋の雰囲気に合わせて。4.Aさまのご友人つながりの作家さんが手掛けたブックラック。



焼き上がった器や、乾燥中の作品たちがズラリと並ぶ、ご主人お手製の器棚。



外を案内していただくと、おうちと同じ素材で設えた物置を発見!二棟が寄り添っている様子はまるで親子のよう。「せっかくなら同じ素材で」という想いから家づくりの際に一緒に計画したのだとか。さて、中に何が入っているのかというと、実は陶芸用の電気窯がありました。

器は焼くと、ひとまわり小さくなります。焼き上がりのサイズや食事の様子を思い浮かべながらアイデアを練るというAさま。主に休日に作品づくりを楽しまれています。平日の通勤途中では「次はどんなものをつくらうか」と考えたり…そんな時間もまた幸せのひとつです。

3

Pottery

おうちで陶芸を楽しむ



10年ほど前に陶芸をはじめたというAさま。キッカケは奥さまが通いはじめた陶芸のカルチャースクール。ご主人も一緒に参加したところとても面白く、それ以来ふたりで楽しむようになったそうです。「付添いのはずが、今では私の方がはまってしまって(笑)」とご主人。その

熱意は、自宅にろくろや陶芸用の電気窯を設置してしまうほど!他にも道具を洗うための大きな流し台や、器を乾燥させるための棚をご主人自らがつくり、一部屋まるまる陶芸スペースになっていました♪思うぞんぶん作品作りに集中できる、なんとも素敵な「居場所」です。



なんと!実際に、ろくろを回した作品作りの様子を見せていただけました。粘土に指をそっと添えながら少しずつ動かしていくとみるみるうちに綺麗な形になっていきます。お話を聞きながらご主人の繊細な手しごとに見入ってしまいました…!

